E929 Status

テスト実験の Analysis Status と Plan

日本での analysis 環境

- D6 line で使っている analysis program を RCNP の alpha (OpenVMS) で動かし始めている（by 郡）
- 他の可能性としては東大の alpha for E906
- 問題点として data tape が現在の所 BNL にしか無い（一部は network でとってきたようだ）

D6 line の beam momentum

- 前回報告したほど beam momentum はずれていない可能性も有る（実は 900 MeV/c で良い？）
  - $K\pi 2$, $K\mu 2$ の missing mass の角度依存
- 48D48 の低磁場 field map の check
  - 低磁場 field map は存在せず（？）
  - 中心運動量の check
- 1.4T の map を scale down したときの map の quality

Beam line + 48D48 の missing mass resolution

- $^{12}_{\Lambda}C$ の substitutional state がきれいには見るところまでは行っていない
  - z vertex を使った dE/dx 補正）

NaI データの解析

- 各 trigger（$K\pi$、$K\pi$+LiveTarget など）での NaI の鳴り方を調べたい
- Typical resolution（electric noise 込み）

Beam line optics の tune

- ビームの上下サイズが結構大きかった(ビームの4割程度が縦 15 mm のターゲットをミス）
- TURTLE を一度は動かしてみたいが手付かず

E929 Status

実験準備 Status

Run schedule

- 1998年6－7月に走る予定で準備を始めている
- 1998年4月までに shipping を ready としたい
- 未確認情報として AGS の SEB が1998年9月から出るという情報もある。この場合には E906 と schedule の再調整が必要

Live target

- BICRON を通さずに直接 ^{13}C のベンゼンを買うことで購入資金を節約できるがなお資金不足
- 買ったベンゼンをシンチレーターにする目処はほぼついている
  - Dye laser 用の dye を試している
  - BICRON の wave length shifter を抽出することも可能

NaI calibration system

- E929 実験のキーポイントだがまだデザイン中
- NaI 用の trigger logic を考える

Other detectors

- BS, FAC の作り直し
- BLC (differential type cherenkov) は Adam version で go
- Target まわり及び NaI の mount の設計と製作（製作は BNL に頼む？）
- 他に filter, splitter, cable などの準備が必要